

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目1番16号 (電話) 099-284-1582
自己評価作成日	令和2年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は開設13年目にあたります。ご家族様、地域の皆様のご協力の下、社会交流・地域参加・外出支援に力を入れています。今年度は、お花見ツアーや県庁展望台でのランチバイキングを始め、納涼祭、地域の運動会や文化祭への参加など行いました。敬老会では幼稚園の園児を招いての交流会を行いました。施設理念である『家庭的でやすらぎとあたたかな暮らし』を提供する為、介護保険の理念である『自立支援』と『尊厳』の在り方をスタッフ全員で振り返り、入居者様へのケアに繋げています。スタッフ教育の面では施設内で毎月勉強会を開催しています。外部研修やスキルアップ研修にも積極的に参加しています。地域との関わりでは、町内会や地域清掃・学習塾へ毎月参加して交流を図っており、災害時の避難訓練を始め応援・連絡体制を確立しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、関連の医療機関との24時間医療連携体制が整っており、月2回の訪問診療や往診等で適切な対応を行い、本人・家族の医療における安心となっている。
- ・自治会に加入し、役員も引き受けて積極的に自治会活動に関わり、地域の総会や清掃活動・運動会・文化祭に参加している。事業所の納涼祭は、多くの地域のボランティアの協力を得て盛大に実施され、地域住民との交流の場となっている。災害時の避難場所として協定を結んでおり、地域との協力体制を築いている。
- ・管理者・職員は、利用者の自立支援に努めると共にこれまでの暮らしの継続にも視点を当てて、嗜好品や身だしなみ・おしゃれにも配慮した対応を行っている。
- ・職員のスキルアップのための内外研修受講を支援し、サービス向上を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月20日

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域に向けた音楽の調べ」という施設理念を念頭に置き、朝礼時に唱和して理念の実践に取り組んでいる。地域との関わり、社会参加の意義を行事や会議等で確認している。	理念を事務室やエレベーターに掲示し、朝礼時に唱和し理念の確認をしている。会議等の機会に折に触れてケアを振り返り、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例で納涼祭や運動会、文化祭、避難訓練などで交流を図っている。今年度は保育園とも交流が図れた。地域の運動会では毎年体育部長を担当し、協力している。毎月地域清掃などにも参加している。	自治会に加入し、地域の一員として清掃活動・地域行事に参加し、役員も引き受けている。事業所の納涼祭には住民の参加があり、保育園児の来訪や通信講座の実習を受け入れる等、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症の予防をテーマに地域の老人会の健康教室の講師を行ったりと活動をしている。運営推進会議では勉強会なども開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状報告のみならず、質疑応答の時間を設け、地域の方々や家族との意見交換が積極的に図れるような取り組みを行っている。今年度は災害対策や勉強会などに重点を置いて行えた。	2ヶ月に1回会議を開催し、ヒヤリハットを含めた事業所の状況報告と意見交換を実施している。認知症の勉強会や避難訓練も兼ねて実施し、活発な意見交換を行っている。委員の助言を受け、職員の顔写真掲示を計画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎年、介護相談員の受入れを行っている。意見をまとめて会議で報告している。又、事故報告書は速やかに提出しており、類似した事例が無いか、再発防止のアドバイスを頂くよう取り組んでいる。	市の担当者とは、報告等に出向いた際に、相談や情報交換を行って連携を図っている。市の災害関係等の研修会やグループホーム協議会の研修会に参加し、情報交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会では、身体拘束が起す弊害について重点を置き行っている。また、身体拘束廃止委員会は最低3ヶ月に1回開催し、不適切ケアの見直しや各スタッフのケアを見直す機会を設けている。	指針があり、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年4回実施している。ケアチェック表でグレーゾーンに当たらないか等、事例を用いて研修を行っている。行政に相談の上、安全対策として玄関の施錠をしているが、素振り等で察知した場合は、一緒に散歩に出る等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止において職員のストレスマネジメントを考えながら、認知症に対する理解不足が原因で虐待に繋がらない様、勉強会を繰り返し行っている。日々のスタッフの口調や言葉遣いにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護・成年後見制度に関して当施設での実例はないが、スキルアップ研修や民生委員の方から話を聞いたりして制度の理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>専門用語は使わずに、解り易い言葉で説明している。施設生活に対する意向の確認を始め、病状の変化や転倒等事故のリスク等も事前にきちんと説明し、施設生活に対する不安の軽減に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>両ユニットの玄関に意見箱を設置している。面会時には必ず職員がご家族へ現状報告を行い、そこから意見や要望を確認している。書面でも毎月のお便りで近況報告を行っている。年に1回家族会を開催して意見交換を行いケアの質の向上に繋げている。</p>	<p>利用者には、日常の会話や介護相談員との面談で要望等を聞いている。家族には家族会で家族のみの時間を設けて意見を出しやすくしたり、面会時に個別の要望を聞いている。玄関のスリッパ設置希望には即対応し、外出希望にも可能な限り取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員が意見を言い易い雰囲気作りと関係性の構築に努めている。朝礼時や毎月の会議の時、業務の合間に意見や提案を聞く様にしている。</p>	<p>日常の業務の中で、提案等をしやすい雰囲気づくりに努め、会議でも意見を聞く機会を設けている。利用者の習慣である装身具使用についての提案を、紛失等を考慮して着用日を決めての実施に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の努力や実績を把握する様に努め、環境整備に努めている。日々の業務のみならず、見えない所での働き・努力の姿勢にも目を向けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の勉強会、法人内でのスキルアップ研修には夜勤者以外全員が参加している。外部研修へは勤務の都合上、全職員は参加できていないが、可能な限り参加を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホーム管理者や他事業者と意見交換や相談を行い施設のサービス向上へ繋がるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には必ず本人・家族と面談を行っている。面談の時間も一人一人調整し、ゆっくり話を聞いている。家族の要望だけが強くない様、本人の要望とすり合わせを行い、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯、ご家族様の介護の苦労など、傾聴と共感に重点を置いている。ご家族様の立場で物事を考え、施設での生活が具体的にイメージできる説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で得た情報を下に、必要な支援の優先順位を考え、サービス利用前に調整を行っている。グループホームでの対応が困難と想定される方や他のサービス利用が必要な場合は他機関に相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、スタッフは家族に近い立場で接する様に努めている。家事活動では裁縫・調理・味見に協力して頂き職員が学べる関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会で家族の思いを確認し、チームケアの中に家族の役割を確立して、外出支援などを中心に、共に支援していく方向性で働きかけている。家族の力の重要性についても話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ同意を行った上で、昔の知人や近所の方の面会を可能な限りして頂ける様支援している。自宅への外出等、家族の協力を得ながら支援している。	家族や了解を得た知人等の面会及び外出を支援し、これまでの関係が途切れないように努めている。電話や手紙の支援も同様に実施しており、面会者については、家族に報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え、食事の席工夫やレクリエーションのチーム分け等行っている。必要時は間に入り交流を支援し、共同生活における孤立化を防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は必要に応じて適切な医療や福祉機関を紹介している。また、終了後の本人や家族の様子を時にふれ伺う様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは日々、本人の思いや希望をゆっくり傾聴するよう努力している。入居者に担当スタッフがおり、得た情報は全員が連絡ノートやミーティングで共有している。意向の把握が困難な方へはケアの反応、生活歴、家族の話を踏まえている。	日常の会話で本人の思い等を聞き取り、おやつやパンや晩酌等の希望を普段の生活に取り入れたり、新聞・本の購読は事業所の物を提供する等、把握した思いに沿えるよう努めている。意思疎通が困難な場合は、家族の情報を参考に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から聞き取りを行いこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや残存機能等においては本人の意向を考慮しながら、専門職として出来る事、出来ない事を見極め対応している。疾病については病院と連携を取り状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを始め、スタッフが得た情報や気づきをカンファレンスで確認している。本人の要望や家族の意向を踏まえたケアの提供を考えプランを作成している。また、専門職として必要なケアが何かを話し合い提供している。主治医、家族の意見や要望も取り入れている。	担当者会議で、事前に把握した本人の意見を踏まえて家族・ケアマネジャー・職員で検討し介護計画を3ヶ月に1回実施し、6ヶ月に1回及び状況変化時に介護計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を目的に、記録は本人の言動を取り入れ、普段と違うことが起こった場合は詳細に書くように努めている。夜間帯は特に注意して時間を追いながら記載している。ケアプランに沿った記録を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険の更新等専門的な諸手続きや日用品の買い物、福祉用具の手配等必要な時は速やかに代行している。心身に異常があった時は主治医へ報告し必要に応じ専門医への受診の予約や付添いをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加を依頼し、安全な生活が確保出来る様に消防や警察等と連携している。また町内会の方々や民生委員の方を含め協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医との面接を行い、健康管理や訪問診療、必要に応じた定期検査について説明をしており、本人・家族は安心されている。疾病内容により専門医の紹介もしている。	契約時に希望を聞いており、全員が協力医をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療を受けており、検査受診は職員が対応し結果を家族に報告している。他科受診は家族対応が主である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携機関の外来看護師と密に連絡を取り医療的な相談や情報や気づきの共有に努めている。医療面でのアドバイスをケアに反映している。訪問診療で賄えない検査は通院で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供は書面のみならず、必要時は職員が付添いし、情報提供おこなっている。定期的な面会と退院前訪問を行い、入院時の情報を確認しながら、退院後にも安心して施設での生活が出来る様、状態の報告を行い指示を仰ぐ様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族へ重度化した場合の方針について十分に説明し理解して頂く様にしている。心身の状況は常日頃から伝える様にし、重度化した場合の対応も合わせて説明している。	重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。利用者等の状況に応じて、入院や特別養護老人ホーム等の選択肢について説明している。状況変化時に医師から家族に説明し、家族の意向を確認して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験の浅いスタッフ含め全スタッフがいつでも見られる様にマニュアルを作成している。また、勉強会で定期的に訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署指導のもとに火災・地震・風水害などの災害想定避難訓練を年3回以上行っている。地域の研修会にも参加し専門的な意見を頂き、より実践的な訓練が出来るよう訓練内容を見直している。地域の方にも訓練に参加して頂き協力を得られる様になっている。</p>	<p>年2回昼夜想定避難訓練を実施し、消防署立ち合いが1回ある。同一建物内のデイサービス・居宅と合同で訓練を実施し、運営推進会議委員の参加及び町内会長の協力体制がある。地震・風水害の自主訓練も年1回実施している。コミュニティ協議会と災害時避難場所の協定を結んでいる。備蓄は、水・缶詰・レトルト食品を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が人生の大先輩であることを念頭に置いて日々のケアに努めている。人格尊重やプライバシーの確保に努めながら、優しく丁寧な声掛け、対応を行っている。	勉強会を実施し、入室時の声掛けや排せつ介助時のさりげない声掛け・入浴の同性介助等、誇りやプライバシーを損ねないような声掛け、対応に努めている。申送り時は、内容が利用者にわからないように気を付け、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場面では、まず利用者様に選択を委ね、必要に応じ助言を行い自己決定を促している。お茶の時間に嗜好のコーヒー等希望に合わせて提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事活動では料理が好きな方、掃除が好きな方など個別性を踏まえ、その方のペースや意向に沿って支援を行っている。気分がのらない日もあることを考慮しながら本人に確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝、個別性を踏まえた上で更衣プランを行っている。外出時や行事の時は、ネックレスやお化粧品などのオシャレを楽しむ機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下機能に配慮し、食形態を工夫したり、盛り付けにも気を配っている。食事中は歌謡曲やクラシックなど毎日曲を変更したりして食事が楽しくなる工夫をしている。調理の下ごしらえ・盛り付けや下膳・皿洗い等も協働で行っている。	献立は職員が作成、ミキサーや刻み食等の個々に応じた食事形態で提供している。利用者も個々に応じ一緒に、下ごしらえや盛り付け・下膳・皿洗いをしている。季節の行事食や花見の屋台・誕生日の食事等、食べる楽しみに配慮し工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェック表を下に必要量を確保できるように気をつけている。又、食事摂取や水分量が少ない方は本人の嗜好品などご家族や、本人へ聞き、提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕必ず口腔ケアを行い、清潔保持・口臭予防に努めている。又、訪問歯科と提携し、不具合があった場合、随時相談を行ってもらえるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄状態に応じて案内する時間やケアの工夫を行っている。極力トイレにて排泄できる様に心掛けている。汚染があった場合は、本人を思いやる声掛けを行うように努めている。	チェック表で個々の排せつパターンを把握し、時間や状況で誘導等を行い、立位が取れる状況時はトイレでの排泄を支援している。時間を察知し早めの誘導で失敗を減少する工夫や下剤の時間を変えて安眠できるようにするなど、個々に応じた支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事を提供している。毎日歩行訓練やリハビリ体操を行い、筋力維持に努めている。便秘時は、水分補給や腹部マッサージを行い、最終的には医師の指導の下、下剤調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本、週3回、個浴でお一人約30分、介助の下ゆっくり入浴して頂いている。時間帯はマンパワーの都合上、決まってはいるが同性介護にも可能な限り配慮を行っている。脱衣所では音楽をかけたたり工夫している。	週3回午前中の中の入浴を基本に実施している。必要時の2人介助や希望での同性介助にも対応し、安全でゆっくりと楽しめるようにしている。脱衣所での音楽は、鼻歌が出たり拒否も減少する効果がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせた休息を促したり、環境を整え安心して入眠が出来るように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの内服薬説明書などをファイリングしてあり、スタッフ全員が確認できるようにしている。誤薬が無いように2人で確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存能力に応じ、皆で協力し合って、食事作りの下ごしらえ・洗濯物の片付け等仕事を分担している。又、レクレーションの時間やお茶の時間を設定している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日スタッフと一緒に1.2名の方が交代で近くのスーパー迄買い物に出かける支援を行っている（悪天候時や冬季以外）。年間行事の中に花見などの遠足を行い、その際ご家族や地域の方々に案内し、参加を募っている。年間6回以上の外出イベントを企画している。	毎日交代で、車いすの利用者もスーパーマーケットに買い物に出かけたり、受診時にドライブや買い物をしている。計画を立てて、花見・外出ツアー・六月灯・運動会・文化祭に出かけており、一緒に参加する家族もある。家族の協力も得てできるだけ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態を考慮しながら、所持・管理が可能であれば、持って頂いている。こちらで預かりもしており、必要に応じ、一緒に買い物も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様が希望するとき、こちらよりご家族様へ電話行い、本人とご家族が話せる時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには行事の写真や季節の飾り付け、レクで作成した作品など掲示し楽しんで頂き季節感を工夫している。各居室・トイレに手作りの表札を掛けたり、玄関に季節に合わせたユニットの表札を掛けている。介助の際スタッフは自身のたてる騒音（特に夜間）にも注意しながら行っている。	リビングは、空気清浄機やエアコン等で過ごしやすい室内環境に調節し、行事の写真や季節の飾り付けがされている。仏壇のある和室があり、ソファ等の好みの場所で過ごしたり、居心地の良い空間づくりのために、席替えも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席の他に、ソファや和室など居場所を用意している。又、席の離れた利用者同士が会話するのを支援するよう、席の移動を必要に応じ案内している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今迄生活されていた私物を置き、居心地の良い環境作りに努めている。家族との思い出や行事の写真を掲示したりしている。又、本人が作成した塗り絵などを飾り、明るい部屋づくりを行っている。テレビ希望の方は居室に設置している。	居室は介護ベッドや洗面台・タンス・物入れ・エアコンがある。本人がテレビやラジカセ・位牌・遺影を持ち込んだり、生け花を飾ったりして、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態を考慮し、必要な方へはベットや窓枠の角などを保護している。歩行が不安定な方へは迅速な対応ができる様に、御家族様の同意や希望でセンサー等使用し、安全に配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない